

古高取通信

No.39

令和6年7月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

1. 活動の拠点を創る
2. 古高取の知識を深める
3. 古高取の魅力を伝える
4. 次世代へつなげる

古高取を伝える会会報



現在の内ヶ磯窯跡

目次

お知らせ	10
なんでも掲示板	8
活動の記録	5
定期総会	2

『新たな一歩を！』

2006年「高取焼開窯400年祭」が、市民一丸となって開催されました。成功裡に終わり、高揚した炎を消してはいけないとの声に押され「古高取を伝える会」が発足しました。

以来16年、市民の期待にどれだけ応えられたか分かりませんが、今日まで積極的に活動が続けてまいりました。

特に、焼物部会を中心として、市内11校の小学校6年生を対象とした「マイ茶碗づくり」は、昨年1万個を達成するという大きな成果を挙げました。

一方、内ヶ磯窯を復元し、地元の窯元を中心に、都会で薪窯で焼かれなくなった窯元や、福岡県各地に点在する窯元と連携する「陶芸祭」を開催する夢が、一歩も踏み出せていません。

幸い福智山麓の開発計画が歩みだそうとしています。高取焼発祥の地としての誇りをもって活動が続けてきた本会も、計画に参画出来ればと思っています。

隅田知明

2024年度定期総会

〈2024年5月19日(土)〉
場所…直方市中央公民館

3階第3学習室

記念講演…「萩焼の歴史について」

講師…坂高麗左衛門氏

(萩焼宗家第十四代)

2024年度の定期総会は、事業経過報告・決算報告・事業計画(案)・予算(案)について滞りなく承認いただきました。出席者26名でした。

会長挨拶

隅田 知明

”会員のみなさん、こんにちは”
2024年定期総会を開催することができました。本日は直方市長・直方文化連盟会長の両氏を来賓としてお招きしております。福岡県議会議員香原先生には総会にメッセージをいただいております。後ほどご披露いたします。

古高取を伝える会の成立は16年前の「高取焼開窯400年祭」記念事業の一環として、直方市内の小学校6年生を対象に実施したマイ茶碗づくりが好評で、事業を継承するため、この古高取を伝える会が発足しました。

昨年10月13日に感田小学校で、マイ茶碗づくり1万個を達成しま



した。また直方市の事業として「東連寺藩誕生400年記念事業」として10月15日(日)直方市中央公民館で講演会を、展示会と記念茶会・作陶体験(マイ茶碗づくり)を10月27日(金)〜29日(日)まで場所は福智山ろく花公園で実施しました。

詳細は、古高取通信のNo.38をご覧ください。

本年度は、まちづくりの核として、福智山ダム周辺の公園化の一環として内ヶ磯窯跡を可視化できる様にしたい希望を持っています。

私が現役の時、福智山ダム事務所に務めていました。このダムはコンクリートダムですので100年後にダム本体の寿命が尽きるわけで、保存処置した窯本体が見ることができるようになります。

さらにマイ茶碗づくりは、2万個を目指して継続していきたいと思っています。

本年は「歴史資料館」の建設促進をはかりたく推進部会を作りたいと考えています。

歴史関係団体を中心に協議を進めてまいります。

本日に本日はありがとうございます。

来賓挨拶

直方市長 大塚進弘



みなさん今日は、2024年度古高取を伝える会の総会にあたりひと言ご挨拶を申し上げます。

昨年は直方東蓮寺藩が開設されて400年と言うことで、古高取を伝える会の皆様にご支援をいただきありがとうございます。

会長さんのご挨拶の中で、小学生のマイ茶碗作りが1万個を超えたことは、ある意味では画期的なことでもあり2万個を目指して継承してください。今後とも伝える会の皆様にはご支援とご協力をいただき感謝いたしております。

私もダム湖に沈んでいる内ヶ磯窯跡については、福智山・ダム周辺といこいの村を含めて、県事

業として公園化をはかるように都市計画を求めていますので皆様のご意見も聞きながら進めて参りたいと思います。

直方市の都市計画プランを庁内に立ち上げています。それによると体育館の建て替え時期が3年後にきますので現在改修にはいつています。2030年には広域的になれば、体育館の移転とともに跡地の問題とからめて資料館が具体的にあればご協力をいただかなければなりません。直方の歴史を文化を伝えるためにハード面だけでなく、花公園でのソフト面を発信したように、直方の歴史・文化の発展を踏まえこの会の益々の発展を願ひましてご挨拶にかえさせていただきます私のご挨拶といたします。

本日は本当におめでとうございます。

来賓挨拶

直方文化連盟会長 能間 瀧次

みなさん、こんにちは。一言ご挨拶を申し上げます。

昨年度は「古高取を伝える会」

の節目の年で、15年目になります。

その1つは、新聞報道・市報・映像報道で、マイ茶碗が1万個に達したことです。会員の皆さんの指導の賜ものであったと思います。

平成20年に『高取焼開窯400年祭』の時の余剰金、200万円を使用して市内の小学校6年生全員に「マイ茶碗づくり」を市民の代表者から「伝える会」にやつてほしいとして、5年間続き、その後、直方市・市教育委員会が年間50万円の財源支援を行われて、現在も伝える会の地道な活動で続いています。

その2として、会員の皆さんの学習研究機会として副島先生の力が大きいと思います。学習部会は毎年テーマを持って年間3〜5回の講義を行い。3月にはバスにて窯元の現地視察を実施しています。昨年は萩焼の坂高麗左衛門窯を見ているので、今回の特別講演となったしだいです。

坂窯の歴史は古く、慶長9年（1604）毛利輝元が萩に入府し間もなく連れ帰った朝鮮の陶工李敬が帰化し、松本（萩市椿春）の地に良質の土を見つけ開窯したと伝え

られています。

藩主から住居と窯場を賜り名を坂助八と改め、後に坂高麗左衛門とした。初代高麗左衛門没後、子孫は代を継ぎ現在十四代に至っています。茶陶を中心に焼かれておられ長州藩の藩窯でありました。

古高取を伝える会で活動する会員のみなさん!!

本年度は民間の団体と連携して文化連盟の地域にねざした拠点をつくることが会の存在感をもつものです。

直方の文化の発信と情報伝達をもつて文化連携を深めたいものです。

本日の挨拶といたします。

祝辞

福岡県会議員 香原 勝司

2024年度古高取を伝える会総会の開催を祝し 心よりお喜び申し上げます。

開催にあたりご尽力された関係者の皆様に敬意を表すと共に今後益々の皆様のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。

記念講演

第十四代 坂高麗左衛門氏
をお迎えして

副島 邦弘

本年の総会後の特別講演会として参加者50人であった。

講師に萩焼の十四代の坂高麗左衛門先生を迎えて『萩焼の歴史について』というお話をしていただいた。

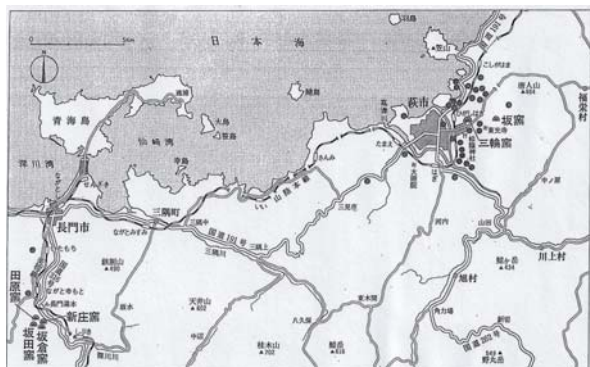
その講義の内容は次のような資料でまとめられていた。

資料として二枚提示された。

(一) 萩焼坂窯由来

(二) 萩焼の歴史とその素材について 坂高麗左衛門窯（パワーポイント使用）





その要約は次の通りである。

前置きとして、旧長州藩の長門国の位置と萩地区と長門地区の説明があり、坂窯の存在する萩城下の松本（萩市松本）、および大津郡深川村三之瀬（長門市湯川湯本三瀬）の地に門窯され、現代に継承発展されてきた朝鮮李朝の陶技を濃厚に伝承するやきものである。

周知のとおり、その起源は豊臣秀吉の文禄・慶長の朝鮮出兵によるもので、西国の諸大名が連れ帰った朝鮮の陶工達であった。

萩焼も、朝鮮陶工李勺光・李敬兄弟によって創始された。

関ヶ原の戦いで西軍に組みしていた毛利氏は領地を削減され、防長二国を徳川家康から封じられた。

安芸の広島から長門の萩へ移封され、慶長九年（1604）萩に入府した際、李勺光一統も広島から萩に移住し、萩の城下松本村中之倉に開窯を命ぜられた。中之倉開窯後、李勺光はさらに国内の古窯跡の復興を命ぜられ、その晩年を大津郡深川村三之瀬で終った。

茶碗として萩焼の名称は、茶会記では『隔蓑記』の寛文八年（1664）六月八日の条に「萩焼之薄茶々碗」が初見であろう。

しかしながら藩内では「松本焼」「深川焼」、または「三之瀬」と呼んでいたようである。現在、「萩焼」と呼称は、明治以降のことで、松本萩と深川萩とに区別する呼称も生じている。

松本焼（窯薪山御用焼物所）の開窯、慶長九年毛利輝元の萩入府にともなって、李勺光・李敬の兄弟は萩城下の松本村中之倉に窯を築き、背後の鼓が嶽を燃料の薪山として下賜され、以後この薪山は唐人山と呼ばれるようになった。李勺光は食禄五人扶持御切錢（銀）貳百五拾目で「御細工人」に召し抱



えられ、妻を娶り一人の男児をもうけた。

この李勺光の子が山村新兵衛光政で、李勺光が死没した時にはまだ幼年であったから、叔父にあたる李敬に育てられ、やがて寛永二年（1625）四月二日付で藩主秀就より「作之允」の名前を頂戴し、父と同じく五人扶銀貳百五拾目をあてがわれて松本の「窯薪山御用焼物所総都合」を命ぜられ、父子二代にわたって萩焼の代表的地位を確立し、その後法躰して松庵（正庵）と号した。

一方、李敬も坂本（後坂と改姓）助八を名乗っていたが、山村新兵衛光政にわずかに遅れて同じ寛永

二年十一月二十一日付で「高麗左衛門」の名前を頂き、食禄三人扶持、米九石で召し抱えられ、ついで李勺光とともに、広島から随従して来た弟子五人（山崎平左衛門、蔵崎五郎左衛門・同勘兵衛、赤川助左衛門・同助右衛門）も同じく扶持ならびに家屋敷と給せられて召し抱えられている。

坂高麗左衛門（李敬）は、やがて寛永二十年（1643）、五十八歳で没している。

坂窯では三代新兵衛までの作品を特に古萩と呼称している。この頃まで窯周辺の、比較的鉄分の多い土を採取して用いたと考えられている。

江戸中期以降は、大道土（防府市大道、台道とも）が陶土として主に用いられるようになり、現代に至っている。

江戸後期から明治期にかけて、小畑土を用い、有田などから職人を呼び寄せ、絵付磁器を焼く。

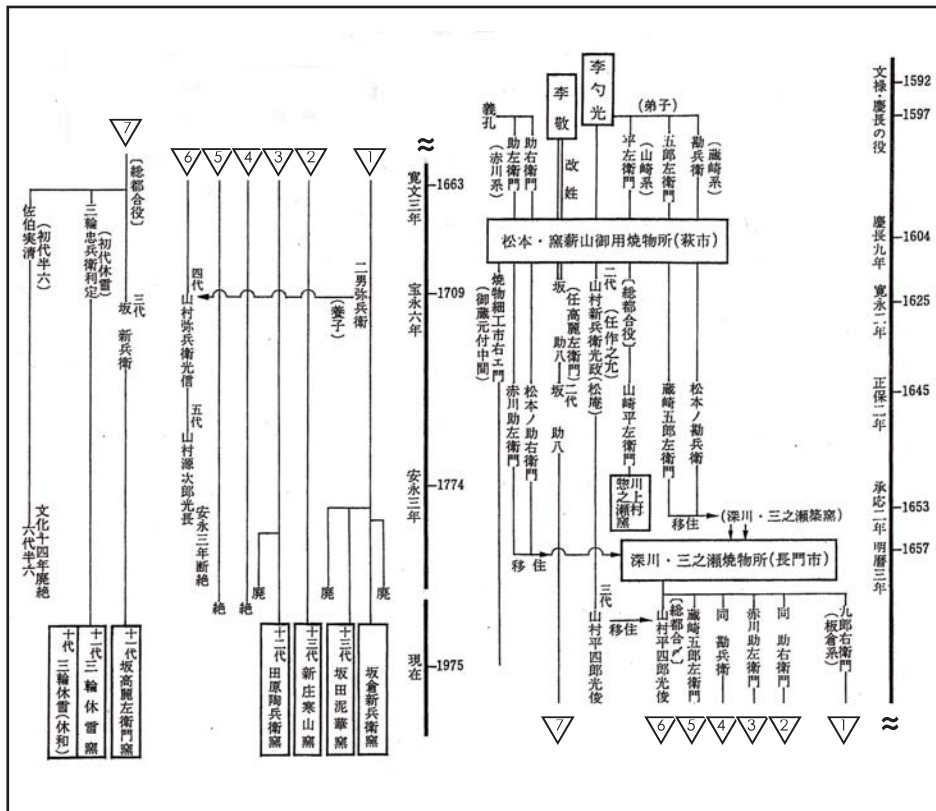
現在の萩焼の胎土の粘土は、大道土をベースに、金峯土（萩市福栄）を混ぜて用いる（白土）で必要に応じて、見鳥土（萩市見鳥）などを金峯土の白土混ぜて用いるこれを赤土である。これに砂・小石を必

要に応じて混ぜて用いる。
砂混じりの荒土を鬼萩（鬼土）、
きめ細かい土を姫萩（姫土）とも
称している。

これが萩焼の素材として使用さ
れる土である。やきものは土が一
番である。そのために、各窯元
でそれぞれ工夫して土を作り上げ

ている。そして釉薬の工夫が必要
となってくる。

萩焼は柔和な肌合い、雅致に富
んだ色合を特徴とし、永年使用の
間に釉肌が変化して、所謂「萩の
七化け」として、他窯の作に紛れ
やすくなってくる。使用すれば使
用するほど変化する。



活動の記録(2024年1月～6月)

理事会

「第10回」

〈2024年1月15日(月)〉

「第11回」

〈2024年2月5日(月)〉

「第12回」

〈2024年3月4日(月)〉

2024年度

「第1回」

〈2024年4月1日(月)〉

「第2回」

〈2024年5月6日(月)〉

「第3回」

〈2024年6月3日(月)〉

広報部会

「第1回」

〈2024年7月8日(月)〉
場所：古町北区公民館



学習部会

「現地視察」

〈2024年3月27日(水)〉
バス見学：柿右衛門の里(佐賀県)

有田焼窯元散策と陶芸の旅

金剛山もとより保全協議会

幸田 洋征

3月26日、前日の雨も夜半には
上がり、朝から絶好の陶芸散策の
旅となり、この会に参加して日の
浅い私には心躍るスタートでした。
中央公民館を定刻に出発したバ
スは、和やかな雰囲気の中に目
的地の有田に到着し、心躍る気持
ちを抑えて少し早めの昼食をゆつ
たりと済ませました。柿右衛門窯
元はすぐ近傍に存在し連休前の為
か参観者もなく自分達だけの貸し
切り状態で展示室等を時間をかけ
て見学することが出来ました。途
中、館内に説明員の方がおられ陶
磁器についてそれぞれの作業工程
が複雑で工程毎に専門職の方たち
が行っている。展示品の中には高
さ60cm位の白地で花柄の壺(1
千万円) 売約済み。窯元周辺の別
の窯元を散策して回るも一品当た
りの単価が陶器に比べ一桁違う感

がし普段使いには私的にチョット手をだしかねました。

窯元巡りしていても周りが綺麗に整備されていて、焼き物を作ってる雰囲気を感じられなかった。

窯元巡りしたのち今日、一番の目的地、佐賀県立九州陶磁文化館へ足を延ばしました。

この陶磁文化館は、九州各地の陶磁器について収集、保存し常設展示している。九州における陶器の歴史が一目で理解できるようになっている。この施設だけでも一日では理解できないほどの容量があり事前準備を充分にして行く必



要がある。入会してすぐに訪問出

来るような所ではない感触を得ました。この度のバスハイクで陶器

に対する造詣の深さを知ることになりました。これから精進して地

元の窯元の歴史をしつかり理解してゆきたいと肝に銘じました。内

容が乏しく恥ずかしい次第です。

地元にはまだまだ、大きなロマンが残っているようで楽しみです。

今は、内ヶ磯ダムの湖底に眠っている登り窯は隠れ織部との関係も報道等に掲載されておりロマンを駆り立てられます。

未熟者ですが、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

柿右衛門窯と有田散策

田中 紀子

雨あがり山々の緑を眺めながら、皆の笑い声に包まれてバスは直方を出発しました。

古高取を伝える会研修バスハイクに始めて参加させていただきました。

有田焼柿右衛門窯などを巡る予定と聞き、うらかな春の一日、楽しみがふくらみます。



柿右衛門窯に着くとまず清閑な庭、濃い桃色の桜が迎えてくれました。正面にはわらぶき屋根の壮観な母屋の佇に目を奪われました。

展示室に入ると作品がずらり。

大皿、飾りつぼ、人形など白磁にされた絵付は繊細な線と柿右衛門の赤が調和のとれた美しさを漂わせていました。いつか柿右衛門窯の湯呑みでおいしいお茶をいただきたいと思います。

次にたずねた古琳庵窯で小皿を買いました。

古琳庵窯のご主人のお話しは楽しく絵付の事などくわしく説明し

てくございました。

有田焼の小皿に干菓子のをせてゆつくりお抹茶をいただきながら有田の一日をふりかえりたいと思います。

来年もまた元氣に参加したいと思っています。

ありがとうございました。

焼物部会

「秋月町焼物教室」

＜2024年2月10日(土)＞

「直方東小学校」

＜2024年5月31日(金)＞

「下境小学校」

＜2024年6月26日(水)＞

「福地小学校」

＜2024年7月2日(火)＞

「中泉小学校」

＜2024年7月4日(木)＞

「直方南小学校」

＜2024年7月10日(水)＞

令和6年の焼物教室は、1学期5校が終了しました。

今後の日程は、「お知らせ」の頁に載せていますのでご覧ください。

学校は全教室クーラーが設置さ



れましたが、体育館での授業が増えていきます。暑いので1学期5校に制限して日程調整をしました。16年前、粘土の上にボタボタ汗を流しながら指導したのが懐かしいです。ほぼ未経験に近く冷汗でもあったのかなと思います。コロナの3年間を終え、子供たちを取り巻く様々な変化、世の中の変化がありますが、昨年の「マイ茶碗づくり1万個達成」を一つの区切りとして、新たな気持ちで400年以上の歴史がある直方の高取焼を次世代につなげる活動を続けて行きたいと思っています。

末松登志子

※このほか、焼物を制作した多くの小学校や幼稚園がマイ茶碗でお茶会を開催し、そのお手伝いもさせていただきました。

お茶会に参加して

田中紀子

直方市の小学六年生が毎年高取を伝える会がお手伝いしてマイ茶碗作りをしています。

令和5年、感田小学校でマイ茶碗が一万個になりました。

個性あふれるマイ茶碗で六年生の卒業祝のお茶会を行っています。

今年元旦に能登半島地震があり、今でも避難生活の厳しい生活を送っている皆様方は大変な日々だと思います。

お茶会をするには「水指、釜、なつめ、柄杓、茶杓、茶釜などの道具を準備します。床を設え軸を掛け、花を入れて子供は受け継がれた道具に囲まれ静寂の中でお茶を体験します。

水指は九谷焼、釜は高岡、なつめは輪島塗と能登半島付近の伝統ある工芸品を使っている事を伝え地震で家業を続けていけないとい



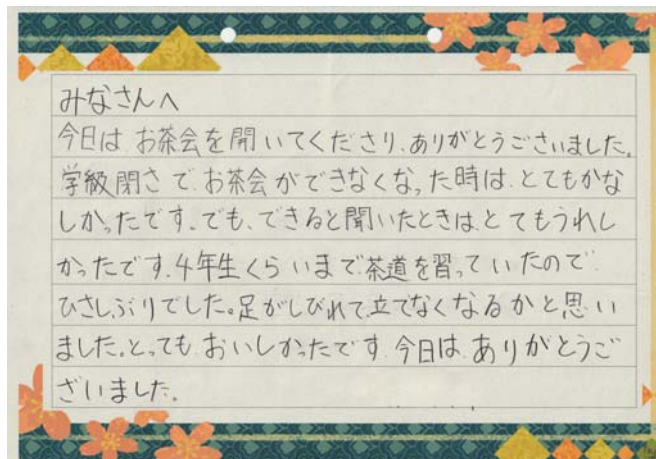
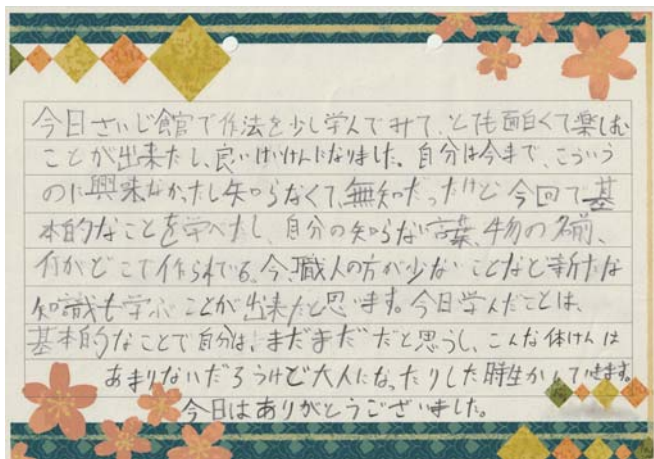
う声をニュースで聞いている事も子供達に伝えました。

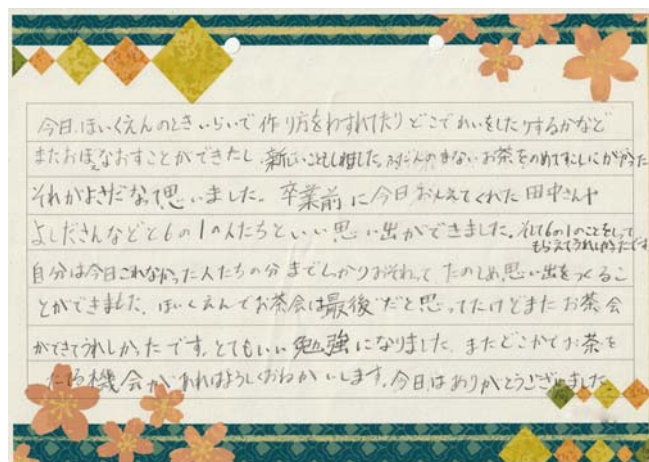
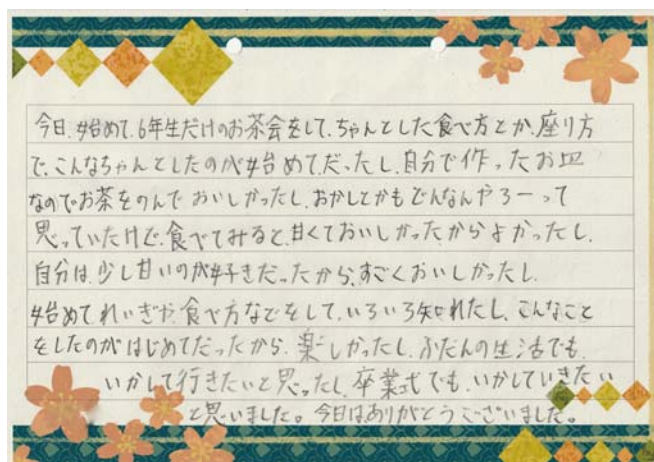
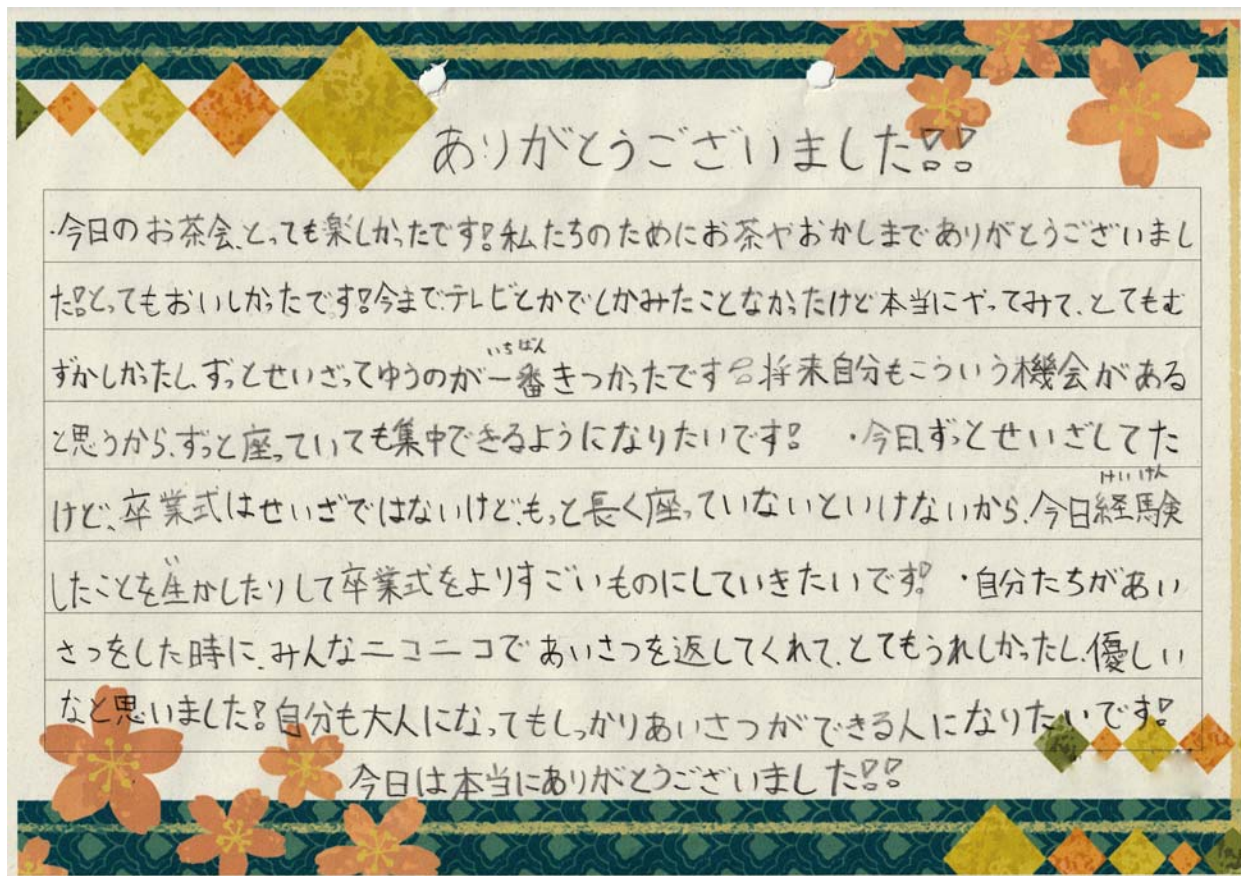
伝統文化を継承していく上で大切な道具の数々が今回の地震でどうなるか、こうして祝いの茶会が出来ているいろいろな道具を使っている事に感謝していききたいと子供達に伝えました。

マイ茶碗作りのお手伝い、お茶会を通して一期一会大切に伝統を学び伝えていこうと思います。

直方北小学校の6年生から

お手紙をいただきました。





なんでも掲示板

●トリオ・カンタービレの
コンサート素敵でした

（2024年4月28日（日））
場所：塩カフェ（直方市殿町12-23）



古高取を伝える会の柴田さんのお誘いで「トリオ・カンタービレ」のコンサートに行きました。

お友達でこの会の村上さんのピアノが聞けるとあり、夫とちよつとおめかしもしながら、会場の塩カフェへ。なんとそこは、秘密の基地。国登録文化財の元前田お茶

屋さんの倉庫部分をそれはそれは素敵なホールに改装され、もう一気にドキドキ、わくわく。会場に入ると私と同様のわくわく顔の皆さんが、また良い雰囲気です。談笑中。せっかくの文化財の建物をまちづくりに生かそうとされた塩カフェのオーナーさんの心意気にまたまた感激。

さあさあ、コンサートの開幕。その名もチェリエル村上さん登場。あのマシマロみたいな優しくや

わらかなお人柄からほとばしるショパンの名曲たち。生み出される音が心地よく素敵です。フルートはデューク東郷さん。ソプラノは、小林愛果さん。ショパン、フォスターを始め日本の童謡など、心に響く曲の数々。三人の方々の心から音楽を愛する気持ちが伝わりジンとしました。ありがとうございました。

直方は本当に良いところですね。古くからの街並みの素敵な建物で、素敵な音楽が聴ける。これからまた色んな楽しいことが始まる。私も年を取ったとか何とか言ってる

場合じゃない。

直方の素敵なところ言ったら、ボランティアが植えるチューリップもそうだけど、もととりあじさい園もボランティアの皆さんの活躍のおかげで、毎年綺麗なお花が咲き、素敵です。

そしてなによりも、この会の皆さんの小学生への焼きもののづくりの指導を始め、未来に向けての古高取を伝える活動の数々、本当に素敵です。

白次順子

●もととりアジサイ園だより (金剛山もととり保全協議会)

〈2024年6月〉

場所：金剛山もととり広場

令和6年のアジサイ園は、6月8日～6月30日の期間で開催しました。20日くらいから雨の多い日が続く、アジサイにとっては恵みの雨となり後半にとっても綺麗に咲いてくれました。

山のアジサイ園を多くの人に知

っていたく様になり嬉しい限りですが、ボランティアの皆さんも年を重ね「いつまで続けられる？」と心配の方が強くなってきました。なんて言ったって平均年齢80歳が近いのです。・・・と言いつつも7月中に花切をして、又来年に備える作業が始まります。

私達の住む地球がおいしい、植物が、自然が教えてくれています。危機を感じながら日々を過すしか

ありません。

金剛山もととり保全協議会

末松登志子

「岩もあり 木の根もあれどさらさらとたださらさらと水の流るる」

許斐和里子先生



金剛山もととり広場に咲くアジサイ

直方南小学校6年生の作品です。出来上がりまで楽しみにお待ちください。



お知らせ

●焼物教室

(小学6年生対象および地域対象)

「日本語教室 おむすび」

〈2024年8月27日(火)〉

場所…直方市中央公民館

「新入小学校(第6回)」

〈2024年8月30日(金)〉

場所…新入小学校

「鞍手幼稚園」

〈2024年9月2日(月)〉

場所…鞍手幼稚園

「直方西小学校(第7回)」

〈2024年9月6日(金)〉

場所…直方西小学校

「植木小学校(第8回)」

〈2024年9月12日(木)〉

場所…植木小学校

「直方北小学校(第9回)」

〈2024年10月1日(火)〉

場所…直方北小学校

「感田小学校(第10回)」

〈2024年10月25日(金)〉

場所…感田小学校

「親子陶芸教室」

〈2024年11月16日(土)〉

場所…直方市中央公民館

「上頓野小学校(第11回)」

〈2024年11月22日(金)〉

場所…上頓野小学校

皆様、ご協力のほど、宜しくお願い致します。

●高取焼基礎研修講座

テーマ…歴史こぼれ話

「第1回」

〈2024年9月8日(土)〉

内容…菓子の話

「第2回」

〈2024年10月20日(土)〉

内容…地名の話

「第3回」

〈2024年11月10日(土)〉

内容…料理の話

「現地視察」

〈2025年3月予定〉

バス見学…伊万里

大川内山(鍋島) 国史跡(佐賀県)

※詳細は、9月初め頃にハガキにてご案内致します。

子供焼物教室を体験した感想をお寄せください

マイ茶碗づくりを経験した最初の子供たちは、もう27歳になります。茶碗づくりの体験をどう思っているでしょうか。茶碗づくりや歴史学習を通して趣味や関心は広がったでしょうか等、マイ茶碗を持っている方々の現在の思いをお知らせください。

〈編集後記〉

今号の表紙は、再び地域のお宝ということで福智山ダムに沈む内ヶ磯窯跡を掲載させていたいただきました。地域のお宝は、まだいっぱいあると思います。少しでも紹介して、みんなで協力し、歴史や文化を発展・継承していければと思います。皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

「古高取通信」会報・NO 39

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

令和6年7月20日

〈現在の会員数〉

正会員 54名(54日)

賛助会員 18名(27日)

団体 1団体(1日)

〈マイ茶碗の数〉

10176個

〈事務局〉

〒822-0026

福岡県直方市津田町7-14

TEL 0949(23)1311